

集客地の活性化に資する、 道路のホスピタリティ表現手法 についての研究開発

目的： 商店街、観光地、温泉地など、地域の核である集客地を活性化するためには、来訪者を暖かく迎えていると見てとれるように道路を整備して、まちを魅力的にすることが重要である。
そこで、ホスピタリティが表現される道路整備の手法を整理し、地域住民にもよくわかる事例集の形でまとめる。

1

舗装、歩車境（地方都市商店街）



道路標示が無く、路側を歩道と一体化して車のための空間を、走行車線に限定して見せている。
しかし、「車が主役」という黒舗装が強いため、人を大事にすることになっていない。

- 車道は黒舗装
 - ⇒車の走り易さは犠牲にしません（車重視型非ホスピタリティ）
- 舗装の色、材質のグレードの差が大きく、歩道が高い
 - ⇒人間のためのスペースは限定しています（人軽視型非ホスピタリティ）
- 走行車線と路側の舗装の差異化
 - ⇒車のスペースを絞りました（車軽視型ホスピタリティ）
- 歩道と路側の舗装の同一化
 - ⇒人のスペースを広く見せます（人重視型ホスピタリティ）
- レーンマークなどの道路標示施さず
 - ⇒車の走り易さを助けません（車軽視型ホスピタリティ）
- 他に、フラット化、長い直線の線形、横断架線、ベンチがない、沿道の建物など、ホスピタリティ弱

2

